

ABE KOGYO

施工説明書

施工業者様用

EXTRA

内装ハンガー引戸ユニット


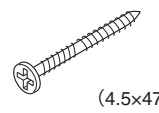
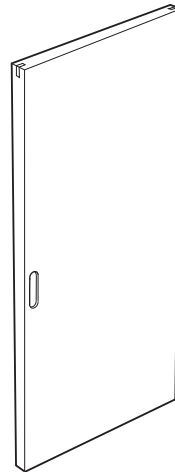

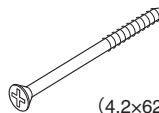
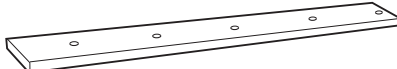
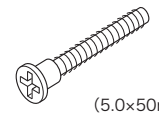
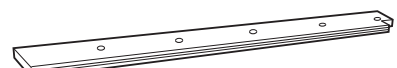
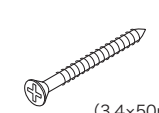
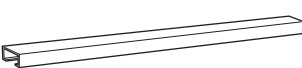
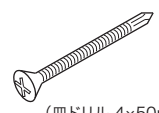



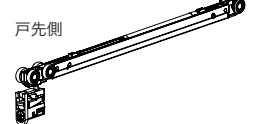
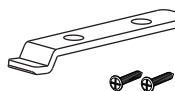
片引（幅狭用共通）・引違

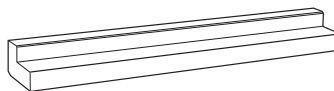
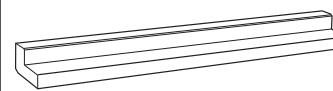
このたびは、ABE KOGYO製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。

!

施工にあたってのご注意

- この施工説明書をよくお読みになり、正しく取付けてください。誤った取付けをしますと、人身事故や家財の損害が発生する恐れがあります。
- 商品に破損や異常がないか、付属品の不足はないかをご確認ください。万一商品に破損や異常があった場合、また付属品の不備があった場合は、販売店または阿部興業株式会社までご連絡ください。
- 照明灯などの熱により、表面化粧が冒される場合があるので、熱源は1 m以上離して作業してください。

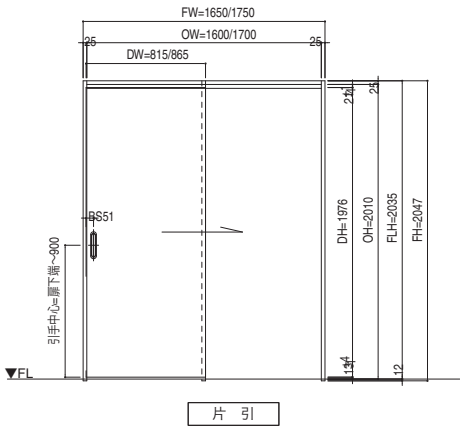
扉 梱 包		枠 梱 包							
扉本体		上枠	片引 1	引違 1		調整ビス	片引 6	引違 4	 (4.5×47mm)
片引	引違								
1	2								
		縦枠 (カバー付)	1	2		躯体取付ビス	13	10	 (4.2×62mm)
		戸当枠	1	—		枠組立ビス (太)	4	4	 (5.0×50mm)
		方立枠	1	—		枠組立ビス (細)	3	—	 (3.4×50mm)
		ハンガーレール	1	1		レール取付ビス	5	10	 (皿ドリル 4×50mm)
		ハンガーカバー	長短 1 1			ビスキャップ	8	—	
 振れ止めガイド		吊車	1	2	 戸先側 戸尻側	ソフトクローズ用 受け金具	2	4	
片引	引違	戸先側 戸尻側	1 1	2 2					
1	2								

ケーシング梱包(ケーシングタイプのみ)						
ケーシング STタイプ	縦	4		横	2	
※固定枠には 付きません。						

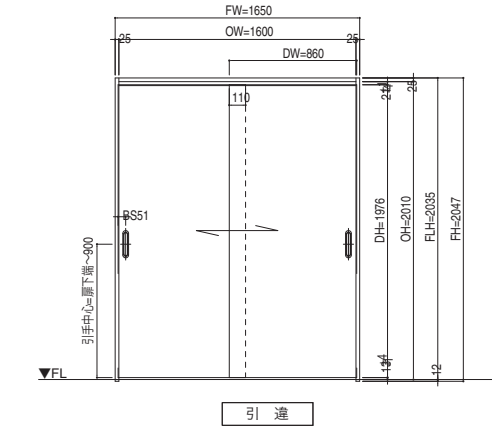
スタンダード(固定枠・ケーシング枠)			
サイズ	FW	FH	
片引幅狭用	1185	2047	
片引	1650・1750		
引違	1650		

《納まり図》

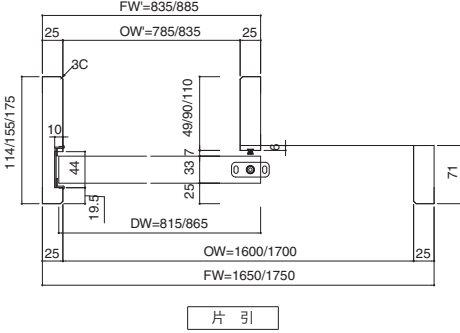
姿図



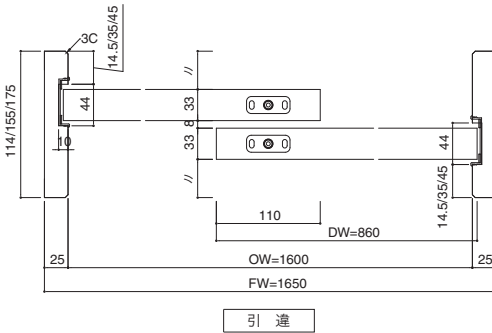
姿図



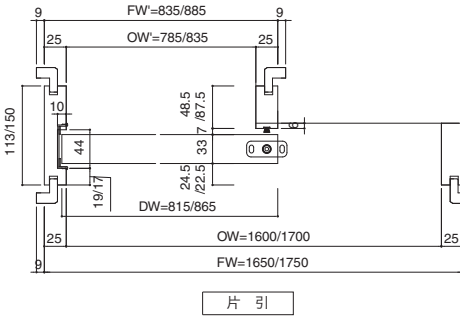
横断面図(固定枠)



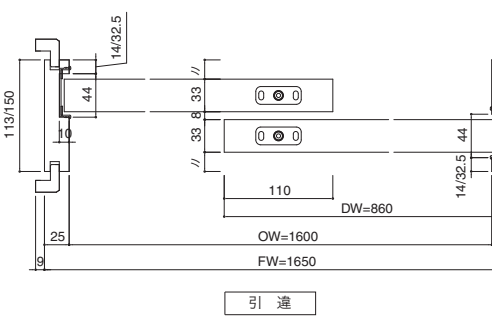
横断面図(固定枠)



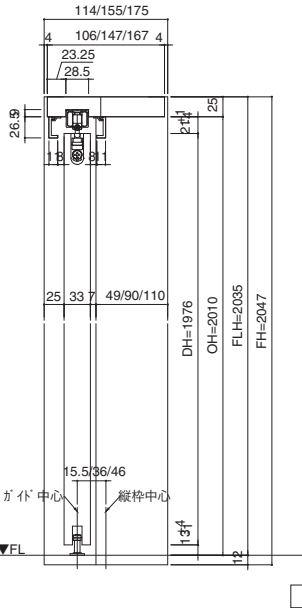
横断面図(ケーシング枠)



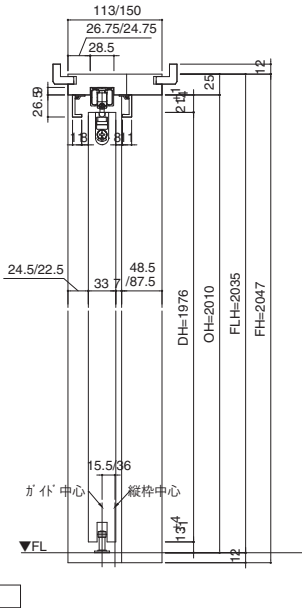
横断面図(ケーシング枠)



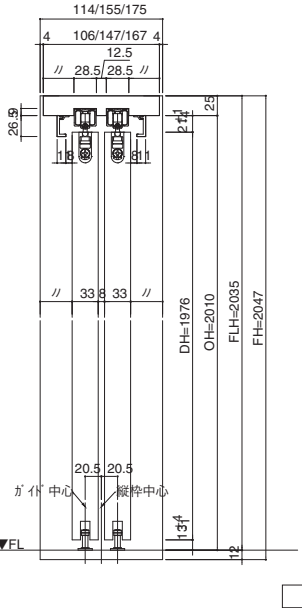
縦断面図(固定枠)



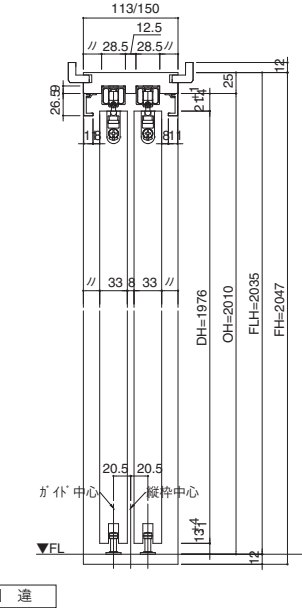
縦断面図(ケーシング枠)



縦断面図(固定枠)



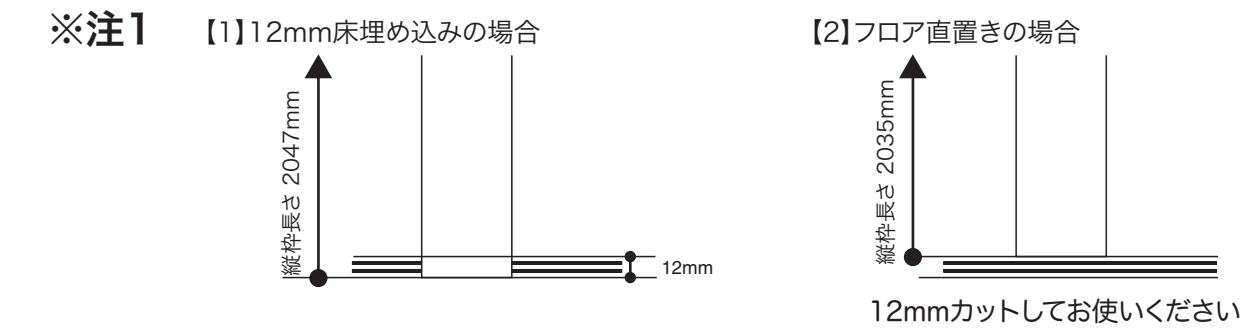
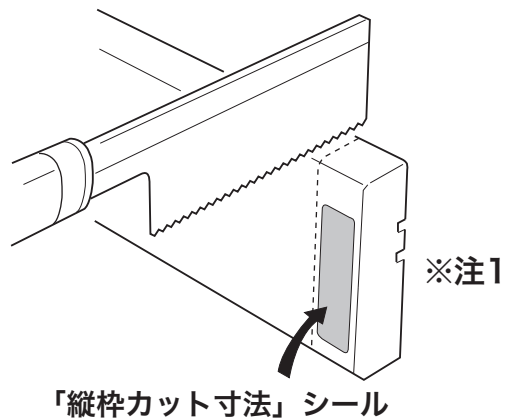
縦断面図(ケーシング枠)



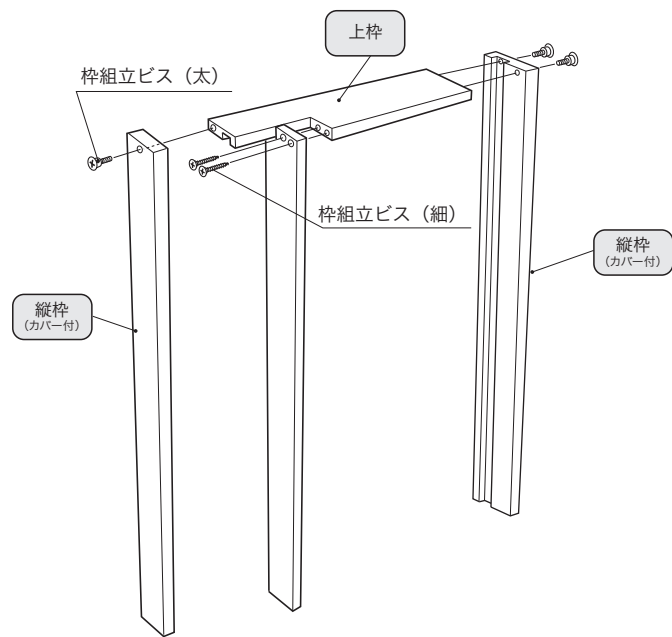
取付け順

1. 枠の組立て

①縦枠は、長めに設定してあります。
「縦枠カット寸法」シールを参考に、ご希望の現場施工に合わせて下端をカットしてください。

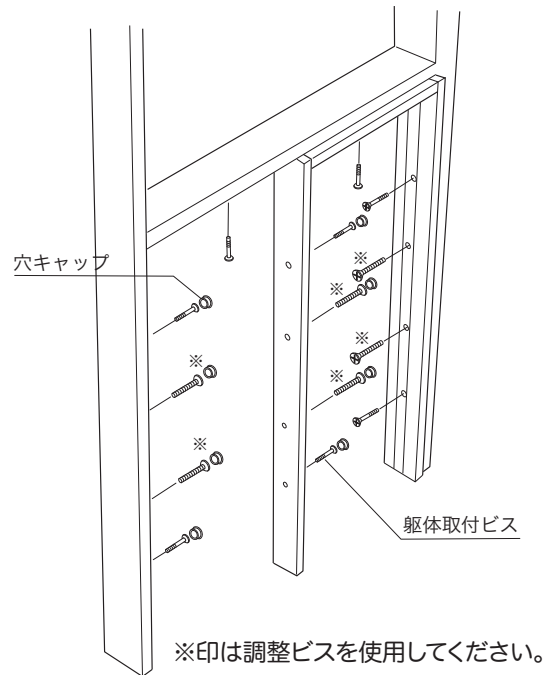
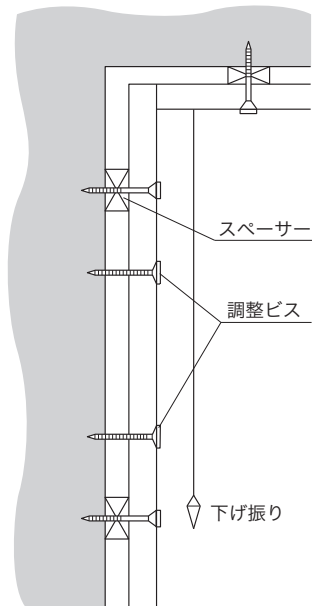


②縦枠及び戸当枠と上枠を、枠組立ビスで締め付けてください。



2. 枠の取付け

- ①開口部の水平・垂直を確認してください。
- ②躯体取付ビスと調整ビスを使って、枠を取り付けてください。

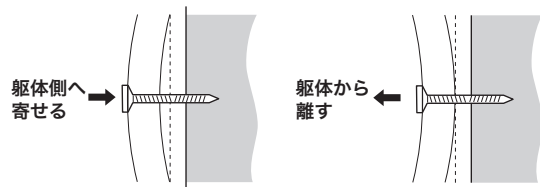
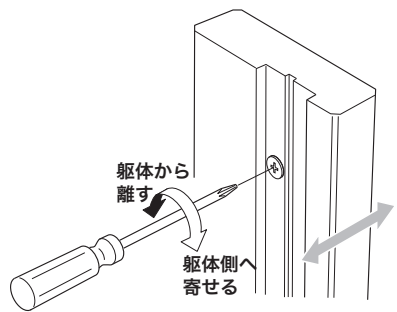


- ③調整ビスの使い方
- 調整ビスは、枠の固定と調整を兼用するビスです。
 - 調整ビスで、枠の下穴より躯体に取り付けてください。(プラスドライバー使用)
 - 下げ振りなどで建付けを確認しながら、プラスドライバーでビスを回して調整してください。

注意

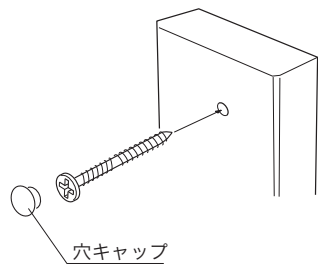
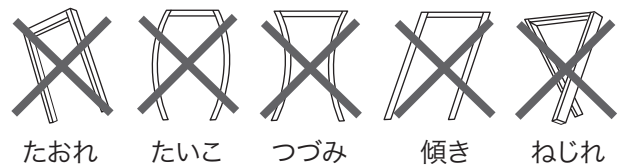
調整ビスによる調整は、必ずボードを貼る前に行ってください。

方立枠・戸当枠の固定は穴キャップのクリアランスが取れるまで打ち込んで下さい。



- ④固定の後、方立枠や戸当枠の取付け穴にキャップを挿入してください。

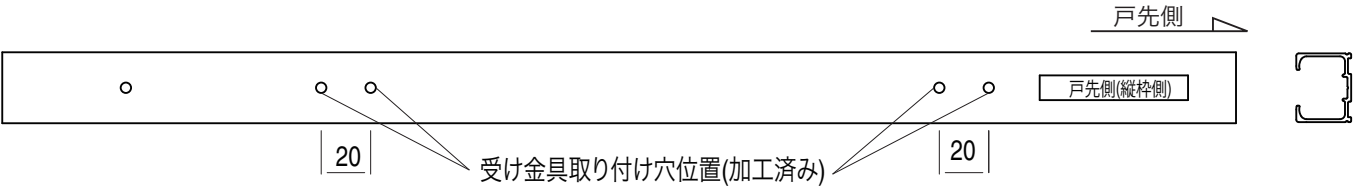
※施工後の枠が下図にならないように水平・垂直および開口寸法の確認をしてください。



3. 部品の取付け

《上レールの取付け向き》

※レールには向きがあります。取り付け向きを間違えるとソフトクローズが正常に作動しませんので必ずご確認ください。

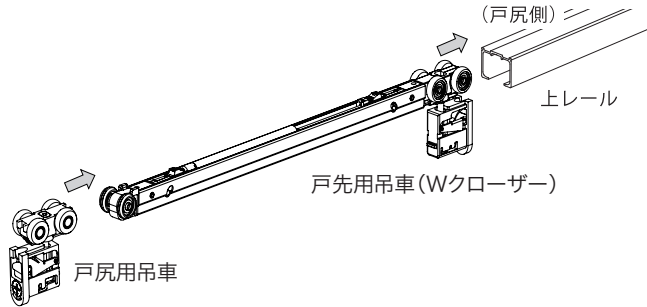


- ①上レールの戸尻側から①戸先側吊車(Wクローザー)、
②戸尻用吊車の順に通してください。

注意

吊車の挿入する向きに注意してください。

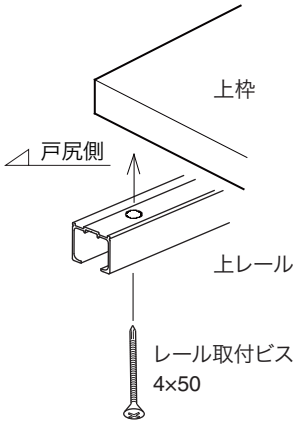
レール内にゴミやホコリが残っていると、ローラーの動きを妨げたり、異音を発生させる原因となりますのでご注意ください。



- ②上レールをレール取付ビスで上枠に取り付けてください。

注意

レールのビスの頭が吊車と干渉しないことを確認してください。



※レール内にゴミやホコリが残っていると、ローラーの動きを妨げたり、異音を発生させる原因となりますのでご注意ください。

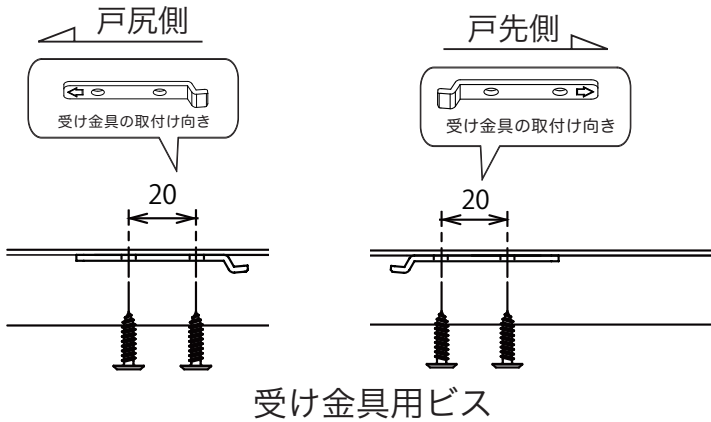
注意

扉の荷重でレールがはずれないよう、しっかり固定してください。

- ③ソフトクローズ用受け金具をレールに固定してください。
◆ソフトクローズ用受け金具

注意

受け金具の取付け向きに注意してください。



- ④穴の位置に合わせて図のようにレールの下から受け金具を取り付けてください。
取付けには付属のビスを使用してください。

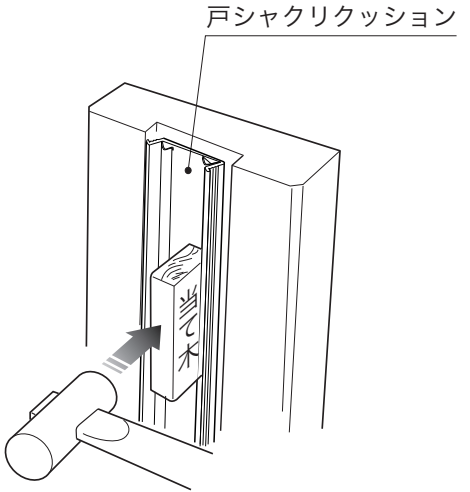
3. 部品の取付け(続き)

- ④縦枠の溝に接着剤を入れ、戸シャクリカバーを挿入してください。

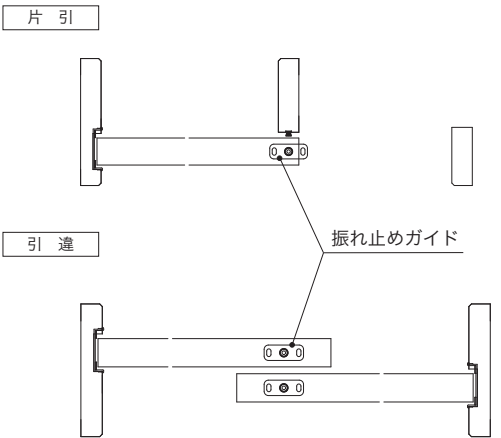
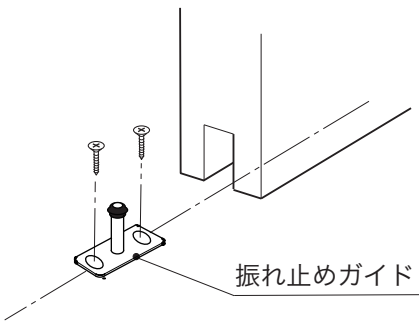
注意

戸シャクリカバーが浮かないように当て木などを添えてしっかり打ち込んでください。

※必要に応じて接着剤を併用してください。(現場調達)



- ⑤振れ止めガイドを所定の位置に取り付けてください。



- ⑥壁・床の施工が終了した後、ケーシングを取り付けます。

※ケーシングの納め方は縦勝式です。
形状に縦用と横用がありますので注意してください。

- ⑦縦ケーシングの高さ寸法、横ケーシングの長さ寸法を、現場にて合わせて適正寸法を確認し、カットして取付けてください。

※ケーシングには、脚の長さが3種類あります。壁厚など現場仕様に合わせて使い分けできます。

《ケーシング品番》

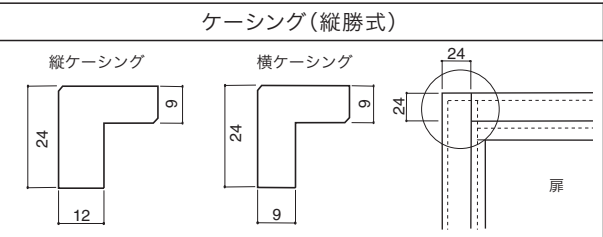
CX - ○ 2 - 72・74 - □

脚長さ

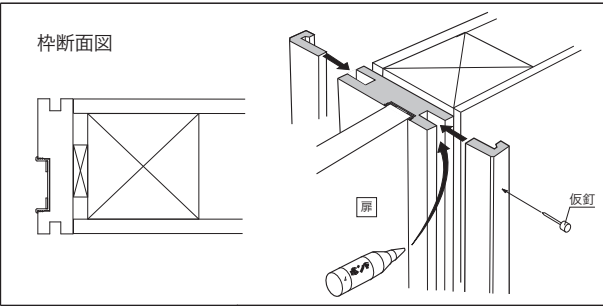
○	脚長さ
A	10mm
B	16mm
C	23mm

注意

現場寸法に合わせてケーシングの切り口をタッチアップし、綺麗に仕上がる様、注意してください。

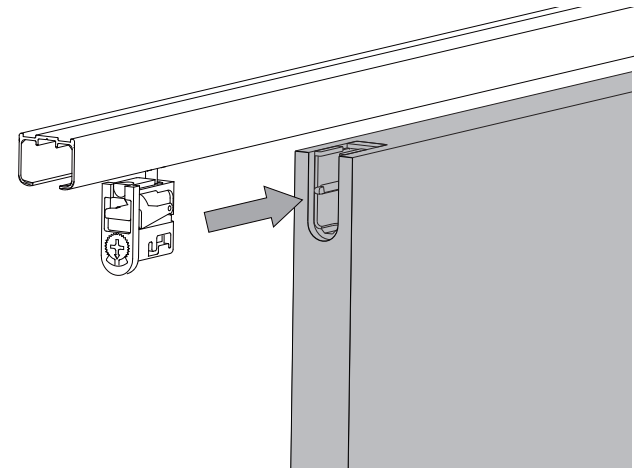


- ⑧枠のケーシング用溝に接着剤(木工用ボンド・現場手配)を塗布し、固定してください。



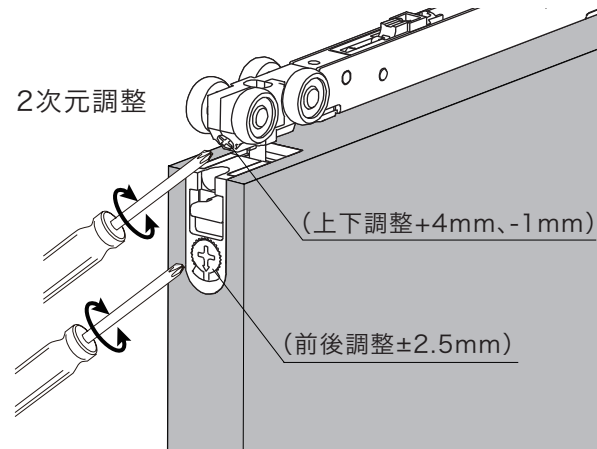
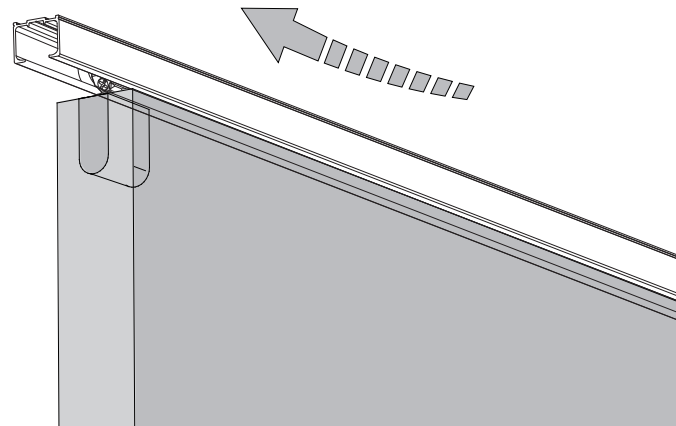
4. 扉の吊込み

- ①レールの取付け後、上ローラーを扉の両端のケースカパーに固定してください(カチッとハマる手ごたえがあります)。



※真横から上ローラーをスライドし、セットしてください。

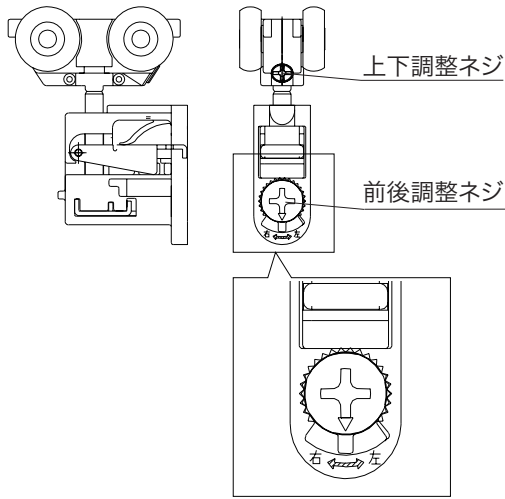
- ②扉の吊込み後、ゆっくりと扉を閉じ、ダンパーが作動することを確認してください。正常に作動しない場合は、扉をカチッというまで閉じ、再度確認してください。扉の調整は必要な場合に行ってください。



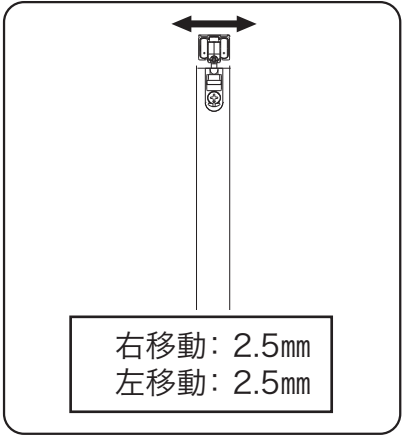
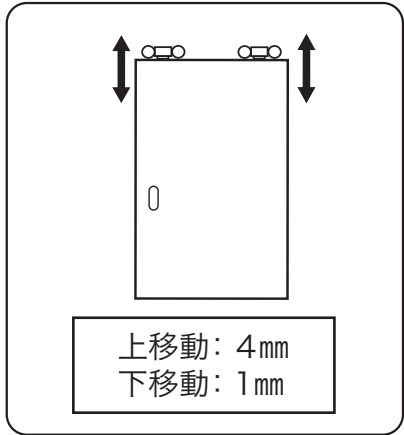
5. 建付け調整

- ①吊車で、扉の上下・左右調整ができます。

吊車の小口からプラスドライバーで建付け調整ができます。



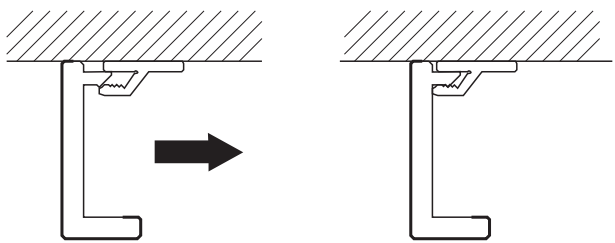
前後調整ネジは「左」「右」の刻印になっています。



注意 調整範囲以上回さないでください。破損の原因となります。

6. ハンガーカバーの取付け

- ①ハンガーカバーを受け材にはめ込み施工完了です。



施工終了後の確認

施工が完了しましたら、下記の点について確認してください。

- ◆すべての部品が取付けられているか、また間違った取付けがされていないか確認してください。
- ◆取付けネジが所定の位置に取付けられているか確認してください。
- ◆ネジのゆるみや枠のガタツキがないか確認してください。
- ◆ドア本体の開閉がスムーズに行えるか、施工上の不具合がないか再度確認してください。

※取付けが完了しましたら、扉が他の現場工事によって破損しないように「養生マット」をご利用ください。
※ダンボールはリサイクル品です。地球環境保護のため、回収業者に引き取っていただくようご協力をお願いいたします。

＜お手入れ方法＞

- お手入れは、うすめた中性洗剤で汚れをおとし、乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。
- シンナーなどの溶剤や強い洗剤を使用しないでください。
- ペンキ・グリース・油・パテなどが付着した場合は、速やかに拭き取ってください。